名取市震災復興計画概要版

発行：名取市震災復興部復興まちづくり課
問い合わせ先：022-384-2111

1 復興計画とは？

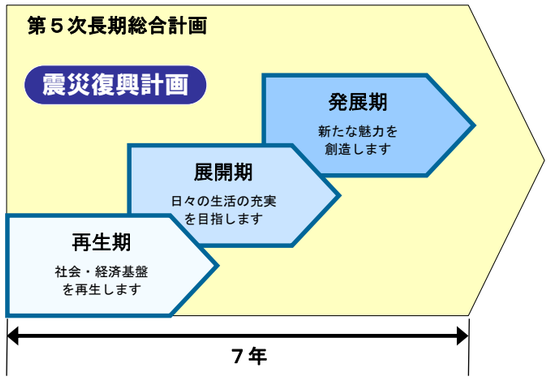
復興計画　Ｐ２～Ｐ３

名取市震災復興計画は、震災により大きな被害を受けた市民生活の早期再建をはじめとして、地域の社会的機能や社会経済活動の迅速な復旧と、半世紀にわたり築き上げてきた本市の魅力の回復と拡大など、市民の皆様とともに計画的な復興に取り組んでいくための指針として策定するものです。

●計画の位置づけと計画期間

復興計画は、名取市第五次長期総合計画（平成 23～32 年度）の基本構想と基本計画を踏まえ、復旧・復興に関する震災対策の特別計画として位置づけます。

●再生期● 社会･経済基盤の再生	被災者支援を中心に社会的機能や社会経済活動の復旧に集中的に取り組むとともに、将来への展望を拓くビジョンを創っていく期間
●展開期● 日々の生活の充実	再生期から発展期への移行期間として復旧を完了させ、新たな都市空間の整備など、地域再生に向け、持続可能な都市づくりに取り組んでいく期間
●発展期● 新たな魅力の創造	さらなる飛躍を目指して、社会的要請に対応した名取の新たな魅力の創造に取り組んでいく期間



2 復興を果たす上で取り組むべき課題とは？

復興計画　Ｐ５～Ｐ７

① 災害への対応力を高め、健やかで安心感ある暮らしを回復させる
② コミュニティの絆を強化し、市民力を結集したまちづくりを展開する
③ 産業基盤･地域資源のスピード感ある復旧と事業展開で活力と雇用を創出する
④ チャレンジ精神に富んだ連携で、地域の新しい魅力や元気を次代に継承･発展させる
⑤ 次代の社会的要請に応え、多世代が安心して暮らす新たな生活舞台をつくる

3 “復興への想い”と“復興の目標”とは？

復興計画　Ｐ13～Ｐ15

復興への想い　心からの笑顔を求めて、新たな未来へ

このような想いを持って、“復興の目標”と“目標達成のための視点”を設定しました

暮らし

目標１：互いに支え合い、強い絆で結ばれた暮らし

目標達成のための視点
- ●震災による心身のダメージの解消と未来の担い手育成
- ●家族（個人）の暮らしや住宅の再建支援
- ●コミュニティの絆の強化と減災に向けた常日頃の取り組み育成
- ●個々人がコミュニティとつながるネットワークの構築
- ●行政、市民、企業、NPO の協力体制の構築

産 業

目標２：地域資源と仙台空港を生かして集積・連携する産業

目標達成のための視点
- ●閖上の貞山運河東側を産業用地とし、速やかな産業復興に着手
- ●地域に根付いた産業の早期再生とさらなる集積・連携強化
- ●産業集積の基盤となる設備等の民間活力導入などによる整備
- ●名取らしさを感じさせる地域ブランドの確立
- ●仙台空港や貞山運河を生かした新たな産業・観光業などの展開

ま ち

目標３：多様な世代が未来を感じて、安心して暮らせるまち

目標達成のための視点
- ●潮風の感じられる、災害に強いまちの構造を確立
- ●災害強化に向け、耐浪構造の集合住宅等を計画的に配置
- ●学校、コミュニティ施設等をまち全体で守る
- ●まちなかには、徒歩圏内に避難場所（施設）を整備
- ●鎮魂のための空間、震災の教訓、復興への道のりを語り継いでいくための空間を確保

4 被災した沿岸部の津波対策と土地利用の方針は？

復興計画　P８～P12

＜沿岸部の復興に向けたまちづくりの考え方＞

①住む人に安心感があるまちづくり
（自然災害を軽減する土地利用、自然災害に対する被害の軽減を総合的に配慮した計画）

②名取市全体で考えるまちづくり
（市内の既存ストックの活用など非浸水地域を含めた計画、市内各地区や近隣市町村とのネットワーク型都市）

③土地の記憶を継承するまちづくり
（自然地形・地盤・景観の活用、地域資源を継承、海と共生するまちづくり、地域の文化を継承）

④地域･集落の持続性を大切にするまちづくり
（産業の未来の夢を描き実現に挑戦する、地域の持続が困難にならない新たな魅力づくり）

⑤次代の暮らしを見据えた、新たなまちづくり
（中心性をもつコンパクトな都市、地球環境時代に向けた地域づくり、海と共存するライフスタイル）

安心感あるまちづくりのために

＜津波対策の方針＞

①堤防の強化や津波防災機能を備えた道路による多重防御
- 海岸堤防、河川堤防を強化し、南北道路に津波堤防機能を持たせる。

②自然地形の活用や盛土による安全の確保
- 自然地形を生かした土地利用を展開する。地盤が沈下したエリアの復興にあたっては盛土を検討する。
- 津波からの安全性を確保するために、盛土や津波回避機能を擁した高床式構造物を検討する。

③高台避難場所と避難路の確保
- 避難場所として、丘状公園や耐浪建築物、盛土構造の高台などを配置する。避難場所への多様な避難道路を整備する。

④防災システムの強化と防災教育の充実
- 停電時にも自立した避難路誘導のあり方を検討する。夜間発災も想定した防災報知システムを配備する。
- 子どもへの防災教育、地域での避難訓練を徹底する。

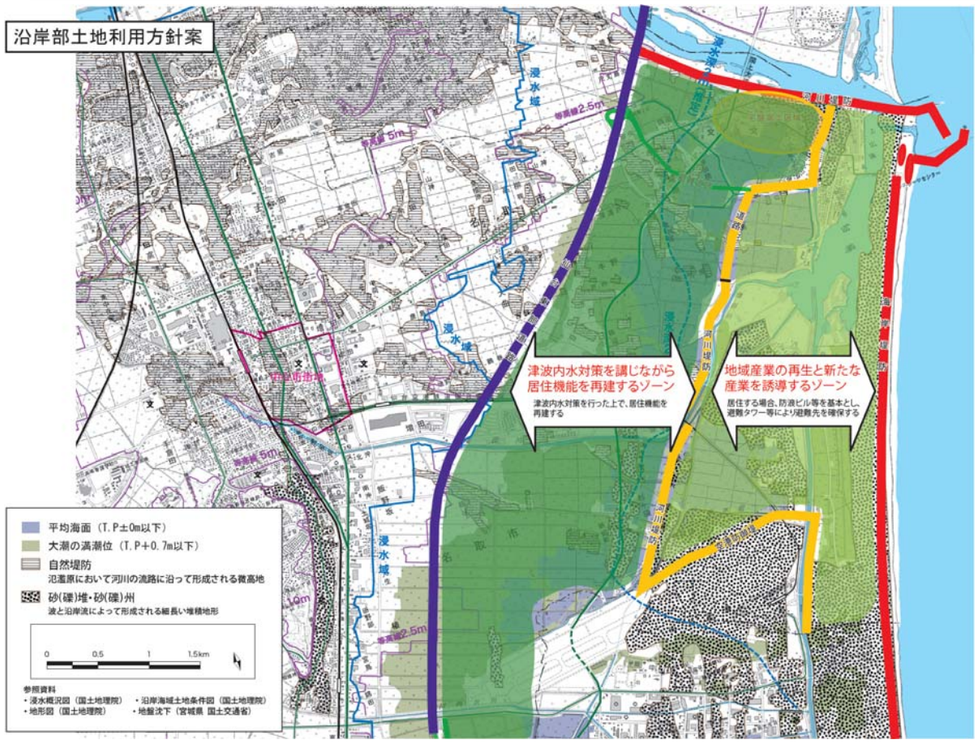
まちづくりの考え方を踏まえて

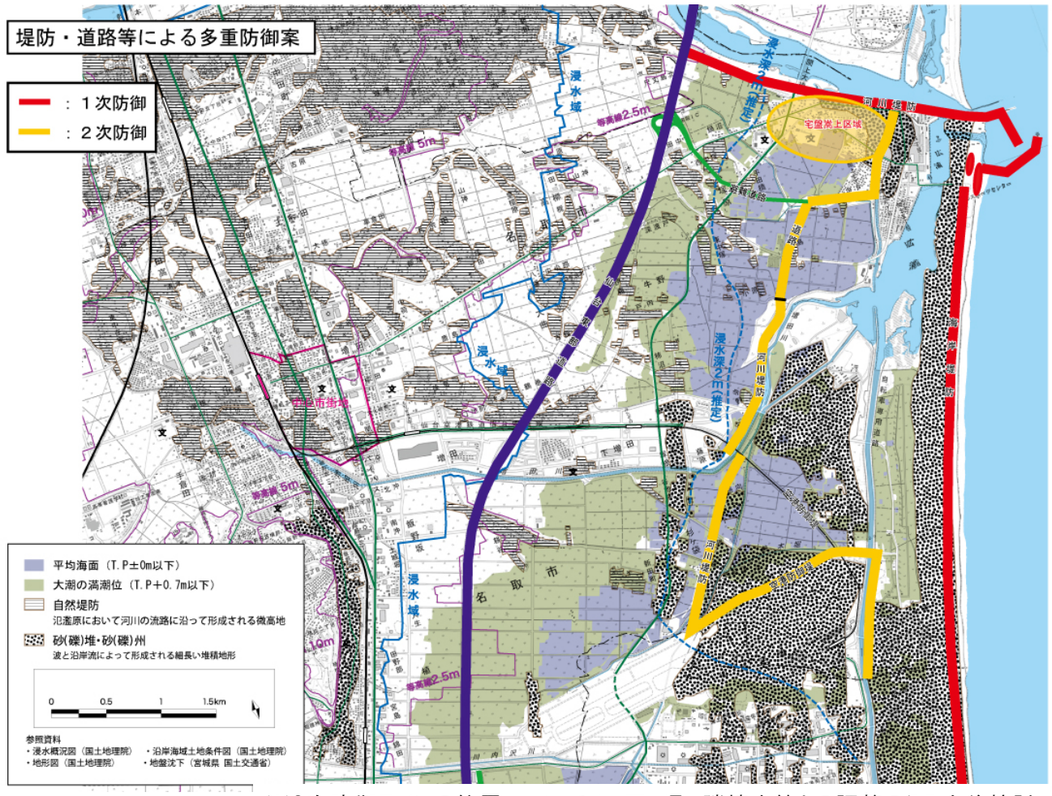
＜沿岸部の土地利用の方針＞

①地域産業の再生と新たな産業を誘致するゾーン
- 基本的には居住を制限し、水産業、水産加工業等の地域産業を再生するとともに、新たな産業を誘致する。
- 居住する場合には、耐浪建築物を整備することとし、津波避難施設により避難先を確保する。
- 海岸沿いは、白砂青松の景観を持続させるべく、市民生活や農業を守る防潮林の再生を目指す。

②津波や内水対策を講じながら居住機能を再建するゾーン
- 避難路対策及び防災システム等の津波対策や、内水対策を施すことにより、居住機能を再建する。

津波への対策を踏まえて





※2次防御ラインの位置については、国、県、隣接市等との調整のうえ今後検討

- １次防御ラインとは…
  仙台湾に数十年から百数十年に一度程度発生している規模の津波への対策で、津波による被害から人命、家屋等の財産を守り、経済活動を継続させることを目的としています。
- ２次防御ラインとは…
  巨大津波で１次防御ラインを超えた場合でも、あらかじめ計画された避難路への避難の時間を確保し、人命を守ることを目的としています。加えて、宅地の嵩上・河川堤防の嵩上・道路の嵩上・空港防御堤などを連続配置により、経済的な損失を軽減させ、経済活動の早期復旧が可能な被害に抑えることを目的としています。

5 閖上・下増田のまちをどのように再建するのか？

復興計画　P18～P23

＜閖上地区のまち再建の事業方針：被災市街地復興土地区画整理事業＞

閖上地区は、災害に対する安心感のあるまちを再建していくとともに、海と共生する街としてこれまで培われてきた歴史･文化や地域特性などを後世に継承しながら、魅力あるまちづくりを進めます。地区住民の早期再建や財産の保全を前提に、現在の位置での被災市街地復興土地区画整理事業による再建を基本として、引き続き検討を進めていきます。

海岸部の土地利用イメージ

海岸沿いには、市民生活や地域農業を守る防潮林の復旧を図ります。復旧に際しては、市民協働の事業として早期に着手するとともに、堅固な防潮林となるよう、瓦礫の活用による盛土を検討します。盛土は、白砂青松を持続できるように国や県と協議し、美しい海岸部の風景を残していきます。

貞山運河西側の土地利用イメージ

津波対策により計画目標の安全性を達成できると判断されるため、閖上の新しい住宅市街地の位置を、閖上１･２丁目を中心に、県道塩釜亘理線付近を含むエリアを選定していきます。更なる安全･安心のための具体的な街のイメージ形成や、各世帯の経済的な問題についても今後協議を続けていきます。

貞山運河東側の土地利用イメージ

貞山運河東側については、メモリアル施設や産業関連施設、マリン･フィールドスポーツ施設などの整備により活用を図ります。地盤の嵩上げを最小限に止め、耐浪建築物を基本としたスピード感ある各産業の復興を図っていきます。魚市場背後への防浪構造物の配置を検討していきます。

田園・集落地区の土地利用イメージ

２次防御ライン西側の田園エリアについては農家集落が点在しており、それぞれのニーズに対応して、地盤の嵩上げや施設の耐浪化を施すなどのきめ細かな対策が必要です。２次防御ラインの整備に伴い内水氾濫などの課題もあるため、内水排水には十分な対策を講じていきます。

＜下増田地区のまち再建の事業方針：防災集団移転促進事業＞

下増田沿岸部は１次防御ラインと２次防御ラインの間に位置し、今回の津波に対する安全対策を十分に行うことが困難であり、集団移転に対する住民の要望等もあることから、津波からの安全性の高い地域への防災集団移転促進事業による移転を行うことを基本に、引き続き検討していきます。

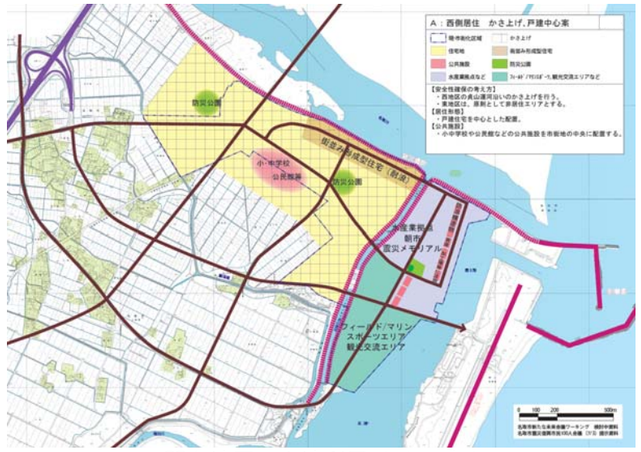
２次防御ライン東側の土地利用イメージ

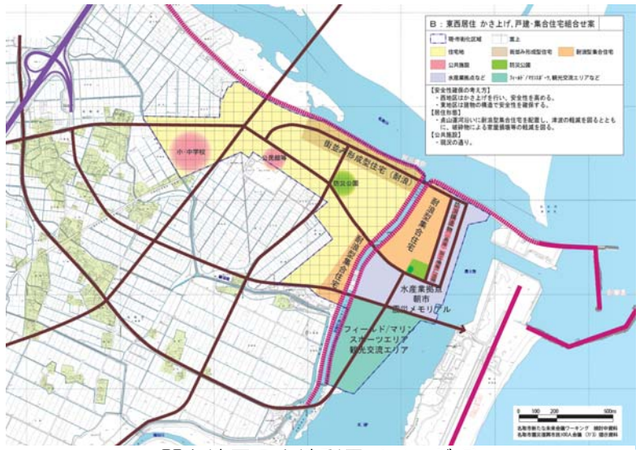
２次防御ライン東側の田園エリアでは、地盤沈下の問題や集落の集団移転、県立農業高校の移転など、田園・集落地区としての再建が困難であると考えられます。そのため、地域資源を生かした自然活用型の交流ゾーンとしての活用や、新たな産業を誘致するエリアとして位置づけて土地利用の展開を検討します。

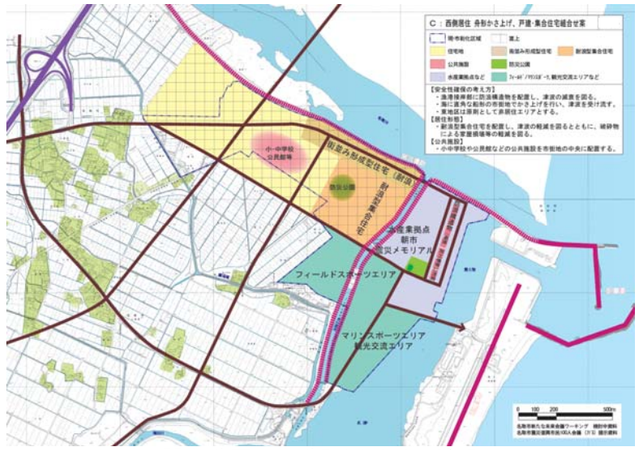
田園・集落地区の土地利用イメージ

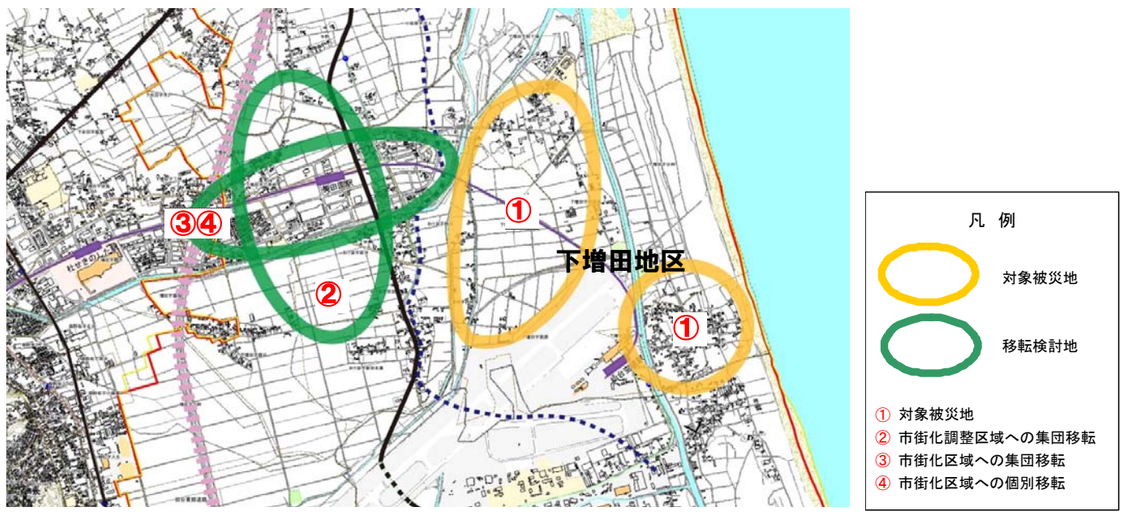
２次防御ライン西側の田園エリアには、農家集落が点在しており、それぞれのニーズに対応して、地盤の嵩上げや施設の耐浪化を施すなどのきめ細かな対策が必要です。２次防御ラインの整備に伴い内水氾濫などの課題もあるため、内水排水には十分な対策を講じていきます。

閖上地区の多重防御と内水排水対策イメージ


閖上地区の土地利用イメージＡ


閖上地区の土地利用イメージＢ


閖上地区の土地利用イメージＣ



下増田地区沿岸部の土地利用イメージ

6 復興を果たしていくためにどのようなことをするのか？

復興計画　P24～P33

復興を牽引する連携プロジェクト

復興への想いと３つの目標（暮らし･産業･まち）の実現に向けて、復興を牽引するプロジェクトを定めます。未来へと希望をつなぐ名取の魅力の再生･復興について、相互補完をしながら、復興の進捗が目に見える効果として実感できるように取り組みを進めていきます。

閖上と下増田のまち再生プロジェクト	**【まちの再生とともに、子どもたちが元気に育つ環境をつくる】** ・みんなで考える新しいまちづくり ・コミュニティの確かな絆が感じられるまちの再生 ・住み続けたい魅力あるまち
産業の速効再生プロジェクト	**【閖上漁港と水産加工業、農業の再生と新たな企業・技術の戦略的連携を進める】** ・小規模でも、できるところから復興 ・拠点化･集約化による地域ブランドの確立 ・新産業の創造、企業集積による雇用の創出
統合医療※で元気プロジェクト	**【統合医療を軸に名取の魅力を結集し、たくさんの人を元気にする健康都市を実現する】** ・たくさんの人を元気にする統合医療 ・統合医療を中心に充実するヘルスケア機能 ・高齢社会のトップランナーを目指す健康都市づくり
空の道・水の道交流プロジェクト	**【東北のゲートウェイとして、仙台空港・貞山運河周辺の交流拠点形成を進める】** ・東北の観光･交流のゲートウェイとしての戦略的ビジョン ・貞山運河･広浦を中心として空と水辺をつなぐ観光軸 ・空港を起点として活発になる国際観光･交流
記憶のまちプロジェクト	**【沿岸部の原風景とともに、震災の教訓やまちの記憶、復興の足跡を伝える】** ・市民みんなの力で再生する沿岸部の原風景 ・体験･教訓、記憶の中のまちの断片を集め語り継ぐ交流 ・災害の正しい知識と生命を守る避難行動を地域に定着

※統合医療：西洋医学による医療と、伝統医学（漢方薬、鍼灸、指圧等）、補完代替医療（音楽療法、アロマセラピー等）などあわせて治療すること

●「暮らし」に関連する施策（38 施策）

施策の方向性
（１）暮らしと住宅の再建支援
（２）心身のケアと未来を支える人づくり
（３）コミュニティを支える地域力の醸成

●「産業」に関連する施策（35 施策）

施策の方向性
（１）地域に根付いた産業の再生と強化
（２）時代を先取りする企業誘致と雇用の創出
（３）なとりらしい風土を感じるブランドの確立と観光・交流の推進

●「まち」に関連する施策（39 施策）

施策の方向性
（１）災害に強い都市空間の創造
（２）復興を支え、元気を育てる土地利用の推進
（３）魅力ある市街地の形成

これらの施策を分野横断的に連携しながら、プロジェクトの推進を図ります。

●名取市復興計画（案）施策一覧

復興への想い：心からの笑顔を求めて、新たな未来へ

復興を牽引する連携プロジェクト

復興の目標	閖上と下増田のまち再生プロジェクト	産業の速効再生プロジェクト	統合医療で元気プロジェクト	空の道・水の道交流プロジェクト	記憶のまちプロジェクト	施策の方向性・主要施策
暮らし 互いに支え合い強い絆で結ばれた暮らし	まちの再生とともに、子どもたちが元気に育つ環境をつくる ◇恒久的な住宅への移行支援（住宅再建支援、被災地区における災害公営住宅整備等） ◇地域への愛着を育てる教育と将来を担う人材の育成（子どもたちの海と陸（おか）の体験・遊びの場づくり） ◇復興に向けた協働のまちづくりの推進（公民館を核としたコミュニティの再生、復興まちづくりを担う地域住民組織の支援）	閖上漁港と水産加工業、農業の再生と新たな企業・技術の戦略的連携を進める	統合医療を軸に名取の魅力を結集し、たくさんの人を元気にする健康都市を実現する ◇心と体のきめ細かなケア（被災者のメンタルヘルスケア、健康相談、自然を生かして心身を癒せる空間、医療・健康のツーリズム等） ◇特区制度を活用した統合医療センターの誘致（特区制度の活用、統合医療やがん治療の誘致、医療・介護の連携、疾病予防と健康づくり、人材育成と研究機能の誘致等）	東北のゲートウェイとして、仙台空港・貞山運河周辺の交流拠点形成を進める	沿岸部の原風景とともに、震災の教訓やまちの記憶、復興の足跡を伝える ◇震災の教訓の蓄積と定着化（復興アーカイブズの蓄積、震災メモリアル施設等） ◇防災意識の向上と地域防災力の強化（学校から地区へ広がる防災・減災教育等）	**（１）暮らしと住宅の再建支援** １）暮らし再建の相談と支援 ２）恒久的な住宅への移行支援 **（２）心身のケアと未来を支える人づくり** １）心と体のきめ細かなケア ２）特区制度を活用した統合医療センターの誘致 ３）学びと成長の環境整備と就学支援 ４）地域への愛着を育てる教育と将来を担う人材の育成 **（３）コミュニティを支える地域力の醸成** １）地域集会所の復旧 ２）震災の教訓の蓄積と定着化 ３）防災意識の向上と地域防災力の強化 ４）復興に向けた協働のまちづくりの推進 ５）新たな社会的課題にチャレンジするまちづくり活動の育成
産業 地域資源と仙台空港を生かして集積・連携する産業		◇農業再開への支援（園芸農業施設の復旧支援、大区画ほ場整備の推進等） ◇農地の集約と持続的な農業経営体制づくり ◇閖上漁港の復旧と漁業・水産加工施設の再建支援（閖上漁港・共同利用施設の復旧、水産加工場の仮設整備、防浪施設等整備への支援） ◇世界に通用する品質管理による漁業・水産加工業の集積促進（仙南の拠点港としての機能集約の戦略、仙台空港を活用した輸出産業の展開等） ◇戦略的な企業誘致と産業振興支援（ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝの公募と支援、産業を担う若い人材の育成） ◇全国をターゲットにした地域ブランドと観光の充実（農水産物、加工品を生かしたブランディング戦略／朝市や中心市街地の賑わいイベント等と連携した特産品の開発と販路拡大）	◇地域産業イノベーションの推進（漁業・水産加工業・農業の連携で健康志向の食の開発と提供、海洋資源やその含有物質の新たな活用等） ◇戦略的な企業誘致と産業振興支援（医療・健康、介護・福祉等の関連産業の振興） ◇自然や歴史遺産等を生かした観光・交流の促進（海のスポーツ・アクティビティの充実、ヘルスケアのツーリズムの活性化等）	◇戦略的な企業誘致と産業振興支援 ◇全国をターゲットにした地域ブランドと観光の充実 ◇自然や歴史遺産等を生かした観光・交流の促進（沿岸地域活性化振興ビジョンの策定等） ◇仙台空港と閖上を結ぶ観光軸の形成	◇被災した地域資源の再生（海浜や防潮林、祭、広浦・貞山運河等／自然環境保護・再生に向けた市民活動の支援等） ◇震災によって生まれた交流や追悼の想いを広げる取り組みの実施（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等をきっかけとした幅広い観光・交流、イベント・交流機会の拡大等）	**（１）地域に根付いた産業の再生と強化** １）農業再開への支援 ２）農地の集約と持続的な農業経営体制づくり ３）閖上漁港の復旧と漁業・水産加工施設の再建支援 ４）世界に通用する品質管理による漁業・水産加工業の集積促進 ５）商工業・中小企業の事業展開への支援 **（２）時代を先取りする企業誘致と雇用の創出** １）地域産業イノベーションの推進 ２）戦略的な企業誘致と産業振興支援 **（３）なとりらしい風土を感じるブランドの確立と観光・交流の推進** １）全国をターゲットにした地域ブランドと観光の充実 ２）被災した地域資源の再生 ３）自然や歴史遺産等を生かした観光・交流の促進 ４）震災によって生まれた交流や追悼の想いを広げる取り組みの実施 ５）仙台空港と閖上を結ぶ観光軸の形成
まち 多様な世代が未来を感じて安心して暮らせるまち	◇防災性の高いまちづくりの推進（地域防災計画、津波被害地区の宅地嵩上げ補助等） ◇生命を守る避難・救援のネットワーク形成 ◇閖上・下増田のまちの復興に向けた事業の推進（閖上地区：被災市街地復興土地区画整理事業、下増田地区：防災集団移転促進事業） ◇地区の復興を先導する公共施設の整備（コミュニティの拠点となる学校・公民館等の再整備） ◇日常生活の魅力を高める環境づくり（次代の居住ｽﾀｲﾙに対応した住宅地・商業地）	◇中心市街地活性化事業の推進	◇日常生活の魅力を高める環境づくり（日常的な健康づくりのニーズや介護・福祉サービスと連動した居住環境の充実）	◇都市の持続的な活力を育てる土地利用の展開（貞山運河・広浦周辺等）	◇閖上・下増田のまちの復興に向けた事業の推進（震災・津波被害を後世に伝える公園の整備等） ◇日常生活の魅力を高める環境づくり（まちの面影や愛着を感じる街並みの形成等）	**（１）災害に強い都市空間の創造** １）災害等廃棄物の処理と適正な活用 ２）公共公益施設・都市基盤施設等の復旧 ３）消防防災施設等の復旧・充実 ４）まちを守る沿岸部の総合的な安全対策 ５）防災性の高いまちづくりの推進 ６）生命を守る避難・救援のネットワーク形成 ７）災害に強いライフラインの構築 **（２）復興を支え、元気を育てる土地利用の推進** １）閖上・下増田のまちの復興に向けた事業の推進 ２）都市の持続的な活力を育てる土地利用の展開 **（３）魅力ある市街地の形成** １）地区の復興を先導する公共施設の整備 ２）日常生活の魅力を高める環境づくり ３）中心市街地活性化事業の推進 ４）多様な世代や多彩な人材の定住促進 ５）賢いエネルギー活用の促進